

報 告

第39回日韓技術士会議報告

A Report on 39th Japan-Korea Professional Engineer Conference in Incheon

第39回日韓技術士会議は韓国の空の窓口である仁川市 (Incheon)・Incheon空港に隣接したHyatt Regency Incheonを主会場として開催された。会議のテーマは「低炭素緑色成長時代における技術士の役割」であった。緑色成長 (Green Growth) という言葉はESCAP*加盟諸国においては環境に配慮し、持続可能な経済的成長を志向しようとするひとつの新しい思潮として使われているものの日本人にはなじみの少ない言葉ではあるが、その趣旨については十分に理解 (類推) 出来る表現でもあるところからテーマとして受け入れた。(韓国はGreen Growthに関する最初の会議を行った国であり、Seoul Initiative Network (SINGG) のスポンサーとして機能し、本年8月には第4回フォーラムを仁川市において開催したこともあり、韓国内ではこの表現がよく使われている)

台風が本州を直撃するというきわどい時期ではあったが、幸いにして前日の7日には日本側の全員が無事に参加することが出来た。恒例となったプレイベントに始まる今回の会議も参加者の顔ぶれは少しずつ世代替わりの様相を見せながらも無事3日間の行事を終えることが出来、最後には来年に第40回日韓技術士会議が開催される下関市での再会を誓って別れた。

【会議概要】

日 程：2009年10月7日(水)～10月9日(金)

参加者：日本 (技術士, 同伴者, 事務局)101名

韓国 (技術士, 同伴者, 事務局)257名

●プレイベント (10月7日 午後)

青年技術士	第5回日韓友好親善サッカー大会
女性技術士の会	第3回女性技術士競争力強化シンポジウム

●式典・全体会議 (10月8日 午前)

韓国技術士会の金 相求氏の司会進行により開始された式典では両国技術士会会長による式辞、両国技術士会議実行委員長による報告に続いて市村一志氏、李 康建氏による基調講演があり、両氏からは技術士の役割について力強い提案がなされた。

両国会長挨拶	高橋 修 (日本), 李 庭満 (韓国)
両国委員長基調報告	中山輝也 (日本), 朴 慶夫 (韓国)
来賓挨拶	鄭 日龍 (教育科学技術部未来人材政策官)
基調講演	「低炭素社会を目指した緑色成長戦略と担い手」市村一志 (建設) 「低炭素緑色成長時代の到来と技術士の役割」李 康建 (都市計画)



写真1 式典・全体会議

●分科会 (10月8日 午後)

午後は下記の通り5つの分科会が設けられ、それぞれ活発に発表および討論が行われた。

第1分科会「国土、環境、観光、資源、エネルギー」 座長：李 康鎬 副座長：田中俊生
(日本)「あさりの生態系サービス受容のための流域技術システム試案」井上祥一郎 (建設他), 「日本の省エネルギー技術と国内排出量取引制度の現状」掛川昌俊 (衛生工学/総合) (韓国)「低炭素緑色成長における技術士の役割」趙 成杓 (土質及び基礎), 「東栢新都市における生態河川の復元」柳 忠鉉 (都市計画), 「未来の再生エネルギーと地球環境」全 相伯 (建築構造)
第2分科会「建設、防災、安全」 座長：鄭 晒淑 副座長：伊藤 徹
(日本)「トンネル支保工はこうして出来上がる」岸田順三 (建設/総合), 「プロジェクト・マネージメントと安全」増子邦宏 (建設他), 「地域防災の課題と対応—日本技術士会の取り組み—」山口 豊 (建設) (韓国)「勤労者の事故予防と労働能力向上についての研究」梁 銅柱 (人間工学), 「Blue Ocean Project in Incheon」安 浩哲 (建築施工), 「電車線路循環電流に対する事故防止対策」梁 炳南 (電気鉄道), 「低炭素緑色成長のための建設廃棄物の再活用の実態研究」金 學清 (土質及び基礎)
第3分科会「技術者倫理、技術者資格」 座長：金 又俊 副座長：高堂彰二
(日本)「技術者倫理と日本技術士会の動き」橋本義平 (情報工学), 「社会の技術思潮—専門職能者の役割と社会的責任、倫理規定事例」宮原 宏 (建設) (韓国)「緑色産業革命 知能形電力網」尹 甲求 (発送配電), 「建設工学監理制度の国際動向と技術士の役割」文 幸奎 (情報通信), 「韓日海底トンネルと東北アジア統合交通網の構築」崔 治國 (交通)

* : ESCAP ; Economic and Social Commission for Asia and Pacific

<p>第4分科会「電気、電子、通信、情報処理、機械」 座長：金 惠鎮 副座長：平野輝美</p> <p>(日本)「自動車業界の環境対応について～HVの普及拡大 変り始めた消費者意識～」澤 誠治(化学)、「緑色計算への目標とアーキテクチャの見直し」田吹隆明(情報工学)</p> <p>(韓国)「文化 芸術会館の建築音響と電気音響の設計研究」金 日(電子応用)、「都市形磁気浮上列車システムのRAM性能目標値予測と分析」梁 熙甲(鉄道信号)、「高速鉄道列車風が線路設計に及ぼす影響に関する研究」南 聖源(鉄道車両)、「原子力安全と計測制御」具 仁守(産業計測制御)</p>
<p>第5分科会「英語発表」座長：全 相伯 副座長：稲垣正晴</p> <p>(日本)「青年技術士交流実行委員会設立50周年を迎えて」斉藤 稔(機械)、「美大三次元振動破壊実験装置の機械要素開発」山崎幸治(建設)</p> <p>(韓国)「韓国の安全保健経営システム(KOSHA18001)の発展戦略」車 淳哲(化工他)、「A Review of USN-based Architecture for Traffic Management」魚 戴弘(情報通信)</p>

●特別展示及びポスターセッション

例年通り、会議参加者からの情報・主張をA1判サイズにまとめたポスターが本会議場前のロビーに展示され、コーヒー・ブレイクの間にはこれらの話題に関して話が弾んでいた。

●両国同伴者ツアー（10月8日）

古くから地政学的宿命を背負い、近代では西洋列強や日本による開国を強制されるにいたった玄関口として歴史に名を残し、現在は北朝鮮を望む要塞地として有名な江華島を訪問し、草芝鎮、平和展望台、江華支石墓、花紋席文化館、農耕文化館といった施設に立ち寄りながら江華島という島嶼の持った数奇な運命について見聞を広めることが出来た。

●友好親善晩餐会（10月8日 夕刻）

夕刻から開催された晩餐会には韓国の技術士および同伴者、事務局員そしてこの出迎えを受けて入場した日本の技術士並びに同伴者、事務局員等を合わせて総勢およそ360人が参席。鄭 日龍・教育科学技術部未来人材政策官、尾池厚之・駐韓日本大使館公使、金 振英・仁川市都市計画局長等多くの来賓を迎えてホテル自慢の大ホールが狭く感じられるなかで、そこかしこで旧知の顔を見出した声や、初対面の挨拶を交わす声などが重なり合うなか、和気藹藹としたムードを醸し出しながら晩餐会は両国の技術士会会長による挨拶から始められた。宴の途中では本会議運営の功労者として伊藤 徹氏、中西利美氏、渥美純一氏（事務局）の三氏が表彰を受け、さらに仁川市からも本会議の開催に尽力したということで日本側に対して記念品が手渡された。宴たけなわのこ

ろ、恒例となった韓国側のご婦人達によるコースが披露され、返礼として岩熊前副会長をはじめ、高橋会長夫人、中山委員長夫人を囲んで日本のご婦人方による童謡「ふるさと」が披露された。閉会に際して本会議に参加した中・四国支部の技術士の面々と宴に特別参加した山口県国際総合センター職員によって次回開催地・下関市の紹介と歓迎の挨拶があった。



写真2 友好親善晩餐会

●産業視察（10月9日 終日）

第37回日韓技術士会議のポスト・ツアーで訪れた当時建設途中であった仁川大橋が完成し、渡り初めの行事が間近に迫った時期にもかかわらず仁川市の特別な計らいで今回のポスト・ツアーのコースに組み込まれており、一昨年に船上から見学した工事真っ最中の大橋をバスで通過をすることが出来た。さらに仁川市が夢見て作ろうとする未来都市の姿をイメージした世界都市祝典会場と都市計画館を見学したのち、現代製鉄仁川工場を見学した。ここでは日本と同様に経済不況と闘っている韓国ではあるが新しく挑戦しようとしている息吹を感じる事が出来た。



写真3 産業視察（現代製鉄仁川工場）

橋本 義平（はしもと よしへい）
技術士（情報工学部門）

(有)SYSBRAINS 代表
日韓技術士会議実行委員会委員
東京工業大学・東京電機大学非常勤講師
e-mail : yhashimoto@r9.dion.ne.jp

